

ふるさと
よもぎま
「私の加茂」
その6




いま三条市に住んでいる私にとって加茂は、子ども時代の思い出がいっぱい詰まっている「まち」です。子ども時代の私のホームグラウンドは、本量寺（五番町）とその裏手の加茂山でした。特に加茂山での思い出は一生忘れられないものとなっています。

栗が熟すとイガが割れて実が落ちるものとは知らず、熟す前の青いイガを木に登って採っていました。栗の木によじ登り、イガのついた枝を折って下に落とすのが私の役目。落としたイガをみんなで木の棒でむいて実を取り出し、その場で生のまま食べていました。熟す前のやわらかい皮、さらにその下の薄い渋皮をきれいにむいて、ようやく姿を現した青白い栗の実を口の中に入れて噛むと「ゴリッ

加茂商工会議所
専務理事 佐藤 健一

という音とともにみずみずしい甘みが口いっぱいに広がりました。その感触と味覚がとてもなつかしく思い起こされます。その他にも加茂山では、10歳以上上の従兄と一緒に小鳥や野ウサギを捕ったり、スズメバチに刺されてとても痛い目をしたことなどもなつかしい思い出となっています。そしてなんといつても四季折々の自然の美しさで私の心の原風景となつていきます。



移り住み、そこで初めて外から加茂を見て「まちの良さ」を認識しました。それまであたりまえに思ってきたものがない、近隣のまちにはない素晴らしいものがあることがわかりました。加茂山や加茂川などの豊かな自然、そして青海神社を中心とした落ち着いた風情あるまち並みなど、まさに『北越の小京都』の名に恥じない魅力がいっぱいの加茂です。

しかし、残念ながら現在はその魅力が生かされていないように感じています。そんな中私は、今年1月から商工会議所に籍を置いています。これも何かのめぐりあわせかと思えます。多くの皆さんと一緒に加茂の魅力を発揮することができればと思っています。

いとものわ

市内事業所の個性豊かな社長さんや店長さんなどの意外な交友関係をご紹介します。いつかあなたにも繋がるかも？



いとものわバトン：No.25 登場の川上嘉明さん ➡ 西村文雄さん



左／西村文雄さん(68歳) 右／小柳英治さん(68歳)

いとものわ No.27

「株西村組」社長 西村文雄さんの「とものわ」は「株小柳組」社長 小柳英治さん。お二人の親交が深まったのは、9年前、建設業界の新年会がきっかけとか。西村さんは登山、小柳さんはスキーと趣味の話で盛り上がり、それ以降、登山やスキーを一緒に楽しむようになったそうです。これまでに登った山は、鳥海山、火打山、妙高山、巻機山、苗場山、谷川岳、下田から福島までの八十里越え…。鍛え上げられたお二人のパワーが写真からも伝わってきますね！この秋は尾瀬ヶ原、冬はスキーに温泉とお酒、来年には北アルプスから日本海をつなぐ^{つがみ}海新道縦走と飯豊山登山を計画中だそうです。